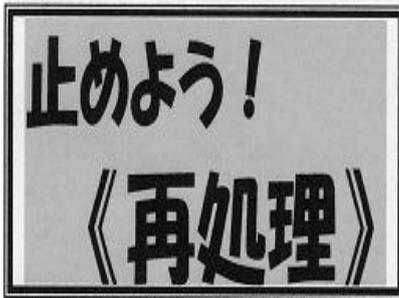


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ [再処理/岩手の環境](http://www.coocan.jp)
[/RI 廃棄物 \(coocan.jp\)](http://www.coocan.jp)
《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》
2023(令和 5年)
8月 7日
第248号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

福島第1原発1号機 ペDESTAL損傷による原子炉压力容器倒壊の恐れ

早急に、原子炉倒壊を防ぐ対策実施を!

国会内ヒアリング



桜井周衆議院議員
(立憲民主党)



規制庁福島事故
対策室担当官
との質疑交換



七月二七日衆議院第一議員会館にて「福島原発1号機ペDESTAL損傷による原子炉压力容器倒壊の恐れ」に関してのヒアリングを本会主催で行いました。原子炉内部の状況は深刻で、高熱の燃料デブリの流下により压力容器の基礎台座(ペDESTAL)のコンクリートが全周溶融損傷し鉄筋がむき出しになっていることがわかっています。

川田龍平参議院議員提出の質問主意書への政府答弁書には「压力容器を含むペDESTAL上部構造が沈下し格納容器に新たな開口部が生じた場合、環境への影響を最小化する観点から対策を行う」とありました。「倒壊」は起きず、「沈下」としてはいますが、その論拠になる压力容器の支持具スタビライザーの健全性はわかっていません。ボロボロの被災原発であり、総重量一千ト近くある压力容器とその他の構造物を、露出した鉄骨が支えているのです。最悪の事態を考えて早急に対策を練るべきです。原子力規制委員会のあまりに楽観的な姿勢に、急速ヒアリングを行いました。

規制委の無責任!
支持具スタビライザーの健全性をかならず「压力容器の倒壊は起きない」と答弁

国会議員

川田龍平参議院議員事務所菅野秘書
桜井周衆議院議員 (立憲民主党)

市民側出席者 11人

三陸の海を放射能から守る岩手の会
岩手から4人、東京2人。

森重晴雄氏と関係者 3人

原子力資料情報室と

東京、関西から 5人 (*うち時間
延期により欠席3人)

ヒアリングは九時半からの予定でしたが、約二時間遅れ衆議院第二議員会館で開催され、原子力規制庁から二人の担当官が対応しました。
(氏名と役職は
大辻絢子氏(東電福島第一原発事故対策室室長補佐)。
田澤雅隆氏(原子力規制庁長官官房総務課国会連絡室)。
担当官は「ヒアリング用質問文書はこの場で初めて読んだ」とのこと、口頭による簡単な回答でした。但し一時間半も話し合いがもたれたことは評価出来ます。岩手の会が進行を担当しました。

ヒアリングの概要

質問1 (压力容器の倒壊防止策を講じないこととの理由と、有識者会議を設置すべきこと)
規制庁担当官の回答
上部が支えられており倒壊しないと考える。放射線が高く内部の工事が出来ない。政府答弁書の判断は原子力規制委員会の判断である。

質問2 (大地震時、一号機压力容器が「倒壊」せず「沈下」する、としたことについて)
規制庁担当官の回答
現在の状況では压力容器は倒壊ではなく沈下してゆく。中の空気は窒素封入を止めればそれほど外に出ない。

質問3 (最悪時を想定し対策を講じて置くことについて)
規制庁担当官の回答
最悪時の想定として規制委員会は、もしかして格納容器に穴が開くというようなことも想定している。その場合に環境に放射能を出さないよう最大限努力する。

質問4 (技術的な質問)
 1、圧力容器が使用済み燃料プールの方向に倒れる危険がある。2、圧力容器は格納容器を突き破り建屋に衝突しないか。3、格納容器がどのような材質の鉄鋼でできているのか。脆性破壊に弱いのではないか

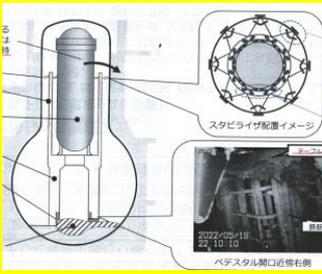
規制庁担当官の回答
 原子力規制委員会としての構造評価の結論がまだ出ていないので結論的な回答は避けま

す。東京電力にインナースカートへの耐性について調査させています。

質問5 (政府の姿勢、重大事故後の対応への新規制基準の制定)

規制庁担当官の回答
 規制委員会として昨年五月から議論しており、今年三月ペDESTアル内全周が破損していることがわかり、何が起きても放射能の環境への影響を最小にする

森重晴雄氏の 倒壊防止 対策案



参考資料・規制委 第一

○10回特定原子力施設監視・評価検討会資料3 (6頁から)

「ペDESTアルの損傷部分を直接補修することなく、原子炉上部を補強するだけでも対策出来ます。原子炉上部に揺れ止めとしてあるスタビライザ付近の高さ1m前後コンクリートを充填するだけで原子炉は原子炉建屋と一体となり飛躍的に耐震レベルが向上します。しかもその作業は格納容器でなく原子炉建屋側で作業しますの被ばくを抑えることが出来ます。その作業場所は今も格納容器内調査の現場基地として使われています。」

出典・川田龍平参議院議員
 質問主意書第一一一一国会提出番号113から

よう指示している。当面の対策はこれでよいと考える。

岩手からの会 永田さんからの質問

1、東京電力と国は、圧力容器はスタビライザーで支えられているから倒壊しないというが、スタビライザーの健全性については承知していないと答弁している。評価しないで倒壊しないと言えるのか。格納容器の上部を、放射線の少ない建屋側からファイバースコープなどを入れ調査出来るはずだ。

2、倒壊を防ぐため具を策を検討する有識者会議を設置するべきである。

3、倒壊し使用済み燃料プールに亀裂が入ると使用済み核燃料が冷却出来なくなり重大事故になる。1号機は原発事故と地震、老朽化により至る所で壁などにひびが入り剛性も低下した。圧力容器が倒れてしまっただけでは

手の施しようがない。福島の人々と国民の不安をなくするために、早急な耐震補強策を打ち出してほしい。

規制庁担当官の回答

新たな専門家会議ではなく、現在の規制委員会体制で行きたい。倒壊が沈下かについて、スタビライザーの高温評価を行っているところであるが、映像は撮っていない。

原発設計耐震技術者 森重さんからの質問

1、国際廃炉研究開発機構の報告書のデータから計算すると、圧力容器が転倒すれば「格納容器の耐力の一〇倍の力」で倒れて行く。

これでは近接する使用済み核燃料プールも破ってゆく。東電にこのことを検証させるべきであり重大なことである。2、一号機格納容器の材質を教えてほしい。ASTM米国規格 A201やA212と予測できるが、この材料

川田龍平参議院議員ペDESTアル問題追及経過

① 川田龍平参議院議員＝質問第70号

川田龍平質問主意書 (2023. 5. 10 提出) 『ペDESTアル損傷による原子炉倒壊の危険に関する質問主意書』 (本会依頼)

政府答弁書 (2023. 5. 19 受領)

http://sanriku.my.cocan.jp/230519F1_1Q&A&C.pdf

(当会会報の第247号で「内容の概略」記事)

<http://sanriku.my.cocan.jp/no.247.pdf>

② 川田龍平参議院議員＝質問第113号

質問主意書 『第10回特定原子力施設の実施計画の審査などに関わる技術会合』配布資料に関する質問主意書』 (2023. 6. 15 提出) (本会+森重氏依頼)

政府答弁書 (2023. 6. 27 受領)

<http://sanriku.my.cocan.jp/230615F1Q&A&CNo2.pdf>

は、引張り強さは大きい。脆性破壊には弱い。地震などで割れることが心配である。

3、インナースカートは、1200℃のデブリで熱伸びしたと考えられるがその際鉄筋が切れたとも考えられる。

4、一号機についてロボットカメラにより危険な状況が分かったが、2号機、3号機も同じような危険な状況ではないか? 早急に調査すべきである。

規制庁担当官の回答

格納容器の材質については、今は分からない。

い。ペDESTアル下部については昨年ロボットカメラ撮影で分かった。予想外の破損であった。

その他の出席者からの質問

○真剣に調査し、倒壊防止支持具が破損していないか、倒壊時の方向等を判断し公開してほしい。圧力容器は「沈下する」だけでは、納得できない。国民を守るという姿勢を感じない。

○1号機へ外付けクレームを整備し、使用済み燃料を早急に地上へ降ろし乾式貯蔵し、リスク低減を図ってほしい。